

## 平成 28 年度幼児教育の推進体制構築事業成果報告書（概要）

## 1. 調査研究テーマ

(ア) 「幼児教育アドバイザー」育成・配置に関する調査研究

## 2. 平成 28 年度に実施した主な調査研究内容

(1) アドバイザー訪問施設数（平成 29 年 3 月 31 日時点）：

幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校
6/9			0/0			0/0			3/11		0/0		0/0		0/9
園	園	園	園	園	園	園	園	園	所	所	園	園	園	園	校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0/0	6/8	0/1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	3/6	0/5	0/0	0/0	0/0	0/0	
園	園	園	園	園	園	園	園	園	所	所	園	園	園	園	

※アドバイザー配置人数：5人

※アドバイザーの最終経歴：公立幼稚園長経験者3人 公立保育所長経験者2人

(2) センターの設置：

- ・設置年度：設置せず
- ・設置形態：該当なし

(3) その他幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

- ・幼保合同研修会
- ・幼児教育アドバイザー連絡会及び調査研究実行委員会

## 3. 成果

(1) アウトプット

- ・幼稚園・保育所への訪問指導（公立幼稚園49回・公立保育所24回）
- ・幼稚園・保育所の合同座談会（4回）  
若年教員対象（1回）、中堅教員対象（1回）、主任教員対象（2回）
- ・幼稚園現場研修（公立幼稚園8園 30回）
- ・幼稚園・保育所の合同実技研修（3回）
- ・幼稚園・保育所の合同研修会（13回）  
幼稚園訪問参観（8回）、保育所訪問研修参観（5回）
- ・保育所・幼稚園・小学校理解研修会（1回）
- ・幼児教育アドバイザー連絡会（3回）
- ・調査研究実行委員会（2回）

(2) アウトカム

○幼児教育アドバイザーによる継続的な巡回訪問

- ・アドバイザーの訪問により、自園での偏った見方や考え方ではなく、違った視点や立場から幼児や教職員を見てもらえた。
- ・継続的な訪問により、子どもの育ちや教職員への指導の成果や課題を見極めながら子どもや教職員への指導助言を行うことができた。
- ・これまで新規採用職員への指導員の配置がなされていなかった保育所において、幼児教育アドバイザーが継続的に訪問し指導を行うことで職員への自信へとつながった。
- ・幼児教育アドバイザーに、事例研修や現職教育等に参加してもらうことで、異なる意見を聞くことができ、話し合いがより深まり、全職員のスキルアップにつながる事ができた。

○幼保合同研修会

- ・ 幼稚園及び保育所（園）の公開保育参観に私立幼稚園及び保育園にも参加を呼びかけたことで、公私立の枠を越えて公開保育参観をすることができた。
- ・ 既存の幼稚園訪問や保育所訪問研修に公開保育参観を抱き合わせて計画、案内したことで、他の幼稚園・保育所（園）の職員等の参加に対して構える必要がなく、公開保育の提供がしやすかった。
- ・ 公開保育参観では、保育所の職員は幼稚園教育を、幼稚園の職員は保育所の保育を見ることができ、互いの自己研鑽の場となった。
- ・ 外部講師を招いての研修会では、専門的な立場から指導をいただき、スキルアップにつながった。

【実技研修（運動遊び）後のアンケートより】

- ・ 幼児期の運動の大切さを改めて感じた。実際に子どもたちが楽しそうにしている姿を見て、園でも取り入れたいと思った。（保育士）
- ・ 日々の保育の中で環境を整えて、運動遊びを展開していきたいと思った。（幼稚園教諭）

- ・ 様々な合同研修会を通して、市内公私立幼稚園及び保育所の教職員の交流の場ができ、顔見知りの職員が増えたことで、その後の交流がスムーズになりつつある。
- ・ 保幼小理解研修会では、幼稚園・保育所（園）において就学前に大切にしていることを小学校教員に具体的な事例を基に、丁寧に伝えていくことで、就学前教育・保育の重要性や意味について知ってもらうことができた。

【保幼小理解研修会後のアンケートより】

- ・ 幼・保・小の先生方のつながり、共通理解を図ることがとても大切だと感じた。互いの教育の違いを理解する上でも、この研修会は大事にしたい。（小学校教諭）
- ・ 小学校の先生に幼稚園での保育の様子やねらいを発信していくことが大切である。（幼稚園教諭）
- ・ 幼小連携することで、小学校が0からのスタートではなく、今の発達段階をふまえた上で、成長していくことができると思った。（幼稚園教諭）
- ・ 保育所と小学校との交流があまりできていないことを感じた。この研修会が幼稚園、保育所、小学校が交流できる貴重な場となってよかった。（保育士）

○幼児教育アドバイザー連絡会及び調査研究

- ・ 幼児教育アドバイザー連絡会では、各幼児教育アドバイザーの指導及び助言方法について情報交換することで、今後の巡回訪問の指導につなげることができた。
- ・ 調査研究実行委員会では、幼児教育アドバイザーの情報交換や課題等を受けて、外部講師より幼児教育アドバイザーへの指導方法に関するアドバイス等をいただくことができ、次回の巡回訪問時に生かすことができた。
- ・ 本市の就学前教育・保育に対して、更には合同研修会等に対しても協議をし、よりよい体制について話し合うことができた。

4. 上記を含めた、平成 29 年度の実施計画

- ・ 公立幼稚園・公立保育所への訪問指導（80回）
- ・ 公私立幼稚園・公私立保育所（園）・幼保連携型認定こども園（私立）の合同座談会（6回）
- ・ 公立幼稚園現場研修（8回）
- ・ 公私立幼稚園・公私立保育所（園）・幼保連携型認定こども園（私立）の合同実技研修（3回）
- ・ 公私立幼稚園・公私立保育所（園）・幼保連携型認定こども園（私立）の合同研修会（5回）
- ・ 公私立保育所（園）・公私立幼稚園・幼保連携型認定こども園（私立）・小学校理解研修会（1回）
- ・ 幼児教育アドバイザー連絡会（3回）
- ・ 調査研究実行委員会（2回）